

子どもの歌の楽曲傾向から浮かび上がる ピアノの技術習得についての考察

若原 真由子

帝京短期大学 こども教育学科

【抄録】

【問題・目的】 将来的に保育者を目指す学生にとって、一定程度のピアノ技能の習得は、現場で保育に向き合う上で不可欠であり、演奏技術獲得の必要に迫られていることは現代においても変わりがない。さらに、保育者養成系大学が入学時にピアノの初心者で占められることは、現在でも決して珍しいことではない。

しかし、このような背景がありながら、大学在学中の限られた期間の中でピアノの演奏技術の習得・習熟が求められる。そこで、保育者が習得すべき子どもの歌の中でも、特に旋律に絞って分析することにより、楽曲の傾向からピアノの指導の際の手がかりを探った。

【方法】 調査の対象は、「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌唱歌童謡 140年の歩み（全国大学音楽教育学会編著）」の掲載曲とその楽譜とする。曲ごとに「調性」「音域」「拍子」「小節数」「テンポ」「その他」に関する一覧を作成し、分析した。作成した表をもとに、学生の課題を抽出し、課題に応じた指導方法を検討した。

【結果】 掲載曲で多く使用された調性は、順に「へ長調」「ハ長調」「ニ長調」であった。調性に偏りがあることから、これらの調への抵抗を和らげるような指導が必要である。また、4分の4拍子と4分の2拍子の曲が突出して多いが、4分の3拍子の曲には古くから親しまれる楽曲が存在するため、在学中に3拍子の楽曲のレパートリーも積極的に増やす必要に迫られる。その他、作成した一覧の項目ごとに課題を見出し、指導方法を提案した。

【考察】 作成した表の項目、「調性」「音域」「拍子」「小節数」「テンポ」「その他」それぞれに学習上の課題が示された。多くの学習者に共通する課題となる点を焦点化することができ、楽曲の傾向や特徴からピアノ初学者への適切な指導方法を示すことは、短期間で技術習得をしなければならない保育者養成校の学生にとって効率の良い学習に繋がると考えられる。

【キーワード】 ピアノ伴奏、子どもの歌、ピアノ演奏指導

I. はじめに

将来的に保育者を目指す学生（以下、学生とする）にとって、一定程度のピアノ技能の習得は、現場で保育に向き合う上で不可欠であり、演奏技術獲得の必要に迫られていることは現代に於いても変わりがない。これは、小学校教員採用試験では、多くの自治体でピアノを含めた技能を試験から外していることが少なくない中、就学前に当たる幼稚園・保育園・こども園のどの機関に於いても、音楽に関連する活動では従来どおりピアノが用いられている。だが現場は

そのような傾向で踏襲されているものの、一方の大学入学時での新生がピアノの初心者で占められることは、現在でも決して珍しいことではない。

問題は、学生がそれまでに音楽的環境にあったか否かという背景だが、高校までの期間に吹奏楽や合唱などというなんらかの音楽体験を持っているのであれば、それが入学後に有効に働く面があると考えられる。だが、特段そのような過程も踏まずに、現場で必要とされることを理由にピアノ学習に取り組むことを余儀なくされる場合は、それまでの演奏技術の有無に関

係なく取り組まざるを得ない。それは言うまでもなく、入学時にそのような状態であったとしても、卒業までには伴奏の体裁をとれる形にまで上達することが求められるからである。具体的には、楽譜に記譜されているとおりに、忠実に正伴奏が弾けるまでに上達させることを標榜したいのだが、そこまでのレベルに到達するのは難しいとしても、せめて簡易伴奏であれば弾けるレベルにまで引き上げたいとの願望を、指導する側としては望みたいところである。一般的に簡易伴奏は、右手で歌の旋律を演奏する形態をとっているが、問題は左手にあり、利き腕でない学生が多い上に、その柔軟さを欠く手にとってクリアすべきハードルがいくつも存在する。

加えて、思うように上達しない、あるいは、限られた期間での上達が求められることに対する心理的負担なども相俟った時、ピアノに向き合うモチベーションの低下につながるだけでなく、上達を阻む要因にもなりかねない。これは、学生個人が取り組むべき点も確かに認められる。一方で、多くの学生に共通する課題となる点を焦点化し、そこから問題点の抽出と解決の糸口をみいだすことはできないだろうか。

このような点を踏まえ、本論文では、学生が習得すべき童謡の特に旋律に絞って分析することにより、童謡の楽曲傾向からピアノの指導の際の手がかりを探る。

II. 調査方法・調査対象

1. 調査対象

調査の対象は、「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌唱歌童謡 140年の歩み（全国大学音楽教育学会編著）」の掲載曲とその楽譜とする¹⁾。

この楽譜集を調査対象とする理由は、以下の3点である。

まず、明治初期の文部省唱歌や現代作曲家の作曲による童謡に至るまでの楽曲を扱っており、それらは時代的に長年にわたり、また幅広い層に親しみ続けられている楽曲であることが挙げられる。

次に、この本の編纂に携わったのは保育者養成校に勤める教員であり、保育者養成の視点や専門知識を備えた教員により厳選されたものである。そのためこれまで歌い継がれ、今後も歌

い継がれるであろう楽曲が選曲されているからである。

さらに、掲載曲のほとんどに原曲が採用されている点も本論文の調査対象の理由であり、楽曲本来の持ち味を損なわないことが、楽曲そのものの健全な理解につながるの考えが筆者にあり、以上の3点から採用するに至った。

2. 調査方法

本研究は以下の手順で調査を進める。

- ① 曲ごとに「調性」「音域」「拍子」「小節数」「テンポ」「その他」に関する一覧を作成し、分析をする。
- ② 作成した表をもとに、学生の課題を見出す。
- ③ 学生の課題に応じた、指導方法を検討する。

III. 保育者養成校に入学する学生の背景

1. 保育者養成校に入学する学生の背景

「I. はじめに」で述べたように、保育者養成校に入学する学生は、その大部分がピアノ初学者で占められている。初心者の割合は大学によりさまざまであるが、保育者養成校では7割の入学者がピアノ初学者であることが諸井(2016)の研究からわかっている²⁾。

一方で、ピアノの学習経験があるという学生を俯瞰した時、その中でも経験の程度は多岐にわたる。つまり、ひとくちに「ピアノの学習経験がある」と言っても、どの程度まで習熟しているかという点については、初学者にカテゴリーされるようなレベルにある学習者も決して珍しくない。そしてそのようにピアノを幼少期から習い始めたとしても、やがて塾や部活動などを新たに始める時期を契機として、ピアノの学習を打ち切るケースも少なくない。³⁾

その結果、学習した経験は数年間という期間にとどまるのだが、年数と学習内容は常に一致するわけではない。具体的な例を引くと、実用的なピアノ演奏のスキルのひとつとして、読譜から伴奏を弾けるまでの自立した自学が可能であることを挙げられると思うが、そのレベルにまで達していないケースが大半である。つまり、かけている年数に比して、読譜能力が実践に耐えるだけのレベルに達していないことで、実地

に生かせるだけの音楽的スキルが十分に身につけているとは言えない傾向が、学習経験者にも見られるのである。

保育者養成校では、初学者が7割であることに加えて、このようなピアノの学習経験はあるものの、学習の深度が不十分な学生を対象としたピアノ指導とその工夫の必要に迫られている。そこでは、前述もしたように、学習内容の差異が著しいことで、どの程度の力量を備えているかの確認から始める作業を欠くことができない。これまでの学習を少しでも生かすことを前提とするのであれば、一人ひとりの異なる習熟の度合いの上に、個々に沿った的確な指導と手厚いサポートを施していく工程をたどっていくことになるのは改めて言うまでもない。

さらに、ピアノの学習環境も大きな変革の波にもまれている。「戦後の高度経済成長期における、ピアノ文化の急速な普及」という本間の指摘に明らかなように、戦後は「一家に一台」とまで謳われた、いわゆる「ピアノ・ブーム」が到来したが、これも含めて伊藤（2021）は「戦後の高度経済成長期における企業の技術革新による低価格化や、音楽教室の全国展開を契機とし、ピアノは西欧以上に普及した。」と述べている⁴⁾⁵⁾。ピアノは日本において一般に急速に普及した楽器の一つと言えるが、その後も技術革新により手軽に入手が可能な電子ピアノの開発が進み、アコースティックなピアノと両輪をなしての普及が続くことになる。伝統芸能としての音楽の歴史は長いものの、既に世界中を席卷していた西洋音楽的には欧米から遅れをとっていた日本が、音楽を理解する上で有効に働く機能を備え、また汎用性に富んでいるピアノという楽器に着目し、それを一般市民もがこぞって買い求めるようになるという風潮は、高度成長期の気運とも呼応した当然の趨勢でもあった。そしてそのピアノの活用は、後述するように保育の現場でも重用され、こどもの歌唱活動の伴奏楽器として揺るぎない地位を確立することになる。

だが、近年の価値観の多様化に伴い、習い事としてのピアノの人気にも翳りが見えたあとは、たとえ幼少期の一時期だけでもピアノを習うことは却って希少化しており、それと比例するように電子ピアノの販売台数の減少傾向が顕著である⁶⁾。

こうした社会情勢を背景とし、自宅にピアノを持たない学生の割合が大半を占めるようになった。かつては自宅にピアノがあり、保護者にもある程度の嗜みがあることで、幼少期から一定程度の音楽的素地が育まれることが少なくなかったが、そのいずれも欠いた状態では、家庭での自学の習慣づけが一層難しくなり、自ずと授業外の時間に大学内の施設を利用した練習をする必要に迫られることになる。

2. 在学中の学習環境

保育者養成校に入学する学生の実態とは、入学者中の大半を初学者が占めており、そのような学生は自宅にピアノを持たないことから、初学者におけるピアノの技術習得には、ピアノの学習環境の提供から初学者に対応した指導に至るまでを大学が担うことを余儀なくされることが、先述した状況から理解できる。

大学でのピアノの学習に関する実態について山崎⁷⁾は、東京・神奈川県・愛知県の保育者養成校の四年制大学に限定したシラバスの分析を行っている。調査によると調査対象の大学すべてにおいてピアノの学習に関する授業は開講されているが、4年間をとおして継続的にピアノに関連する科目が設置されているわけではなく、4年間のうち、ピアノに関する科目の履修期間は半期または1年にとどまることがここで確認される。

保育士、幼稚園教諭の免許取得には多くの科目の単位習得が必要であり、そのカリキュラムの上に、更にコンスタントなレッスンを毎週のように、しかも4年間継続して受けることは、現実的には困難を極める。幼児教育において、ピアノの技術を備えて臨むことはアドヴァンテージであることに違いはないが、しかし当然ピアノのみで取り組むわけではないことから、苦手分野の克服とはいっても、あまりにもピアノ学習に比重を置き過ぎたことで他教科の学習に支障をきたしかねない。確かに楽器の習熟は一朝一夕にはなし得ないことから、どうしてもそこに一定程度の時間を要することにはなるが、現実には、実地に即したレベルにまでなんとか手を届かせるために、大学入学以降の限られた時間での技術の習得が学生にとっての最大の課題の一つであると言っても過言ではない。ピアノ技術の習得の過程において、短時間で要領よ

く身につけられるような近道があるはずもないが、それでも限定された時間内に、いかに効率的に学習を進められるかという点が、焦点化され検討されるべき項目であることは間違いない。

以上の学生の実態と在学中における学習環境から、学生がピアノの技術を段階的かつ的確に習得するには、指導者が質的にも効率的にも高い学習支援をいかなる方策を以て提供できるかが問われるところである。

3. 領域「表現」のねらいと内容からわかるピアノ伴奏の必要性

Table 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・こども園教育要領 領域「表現」ねらいと内容

<p>〈満1歳以上3歳未満児〉</p> <p>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。</p> <p>(2) 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。</p> <p>(3) 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。</p> <p>(2) 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。</p> <p>(3) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。</p> <p>(4) 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。</p> <p>(5) 保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。</p> <p>(6) 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。</p> <p>〈3歳児以上〉</p> <p>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。</p> <p>(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。</p> <p>(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。</p> <p>(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。</p> <p>(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。</p>

Table 1. は、領域「表現」に示されているねらいと内容を満1歳児以上満3歳児未満児と3歳以上児に分けて記載したものである⁸⁾。

領域「表現」のねらいと内容から、ピアノ伴奏の意義を考えていきたいと思う。

まず、満1歳以上3歳未満児と3歳以上児に共通する点として、「自分なりの表現」が挙げら

れる。こどもに対して「自分なりの表現」を促すことが保育者に求められる。また、満1歳以上3歳児未満児の内容では「音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。」という記載や、3歳以上では「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」という表記があることから、子どもの発達に応じて音楽に親しんだり、味わったりできるように、子どもの実態に即した音楽の活用が求められることも理解できる。これは、子どもの成長や発達と、年齢によって音楽的な内容とが、呼応するかのように変化を遂げる点として着目されていることがわかる。

更に、内容には「歌をうたったり」という、満1歳以上3歳児未満児と3歳常時の両方に、歌唱についての明記がなされている。歌唱は3歳未満であればまだ言葉の発音が難しいため通常のテンポよりも遅いテンポでの伴奏が必要な場合がある。また3歳以上であれば、楽曲そのものの長さの延伸に伴い、当然歌詞もがそれなりに長くなるため、ある箇所のみを抜き出して扱う、いわゆる部分練習を行う必要に迫られるケースも出てくることだろう。

このように、ひとくちに伴奏と言ってもそのあり方は一様ではなく、いずれの場合も伴奏という形態はとりながらも、状況に応じた対応に迫られるのは言うまでもない。

また、音楽活動の音源としてのCDの活用についても触れておきたい。これは、保育者の音楽的スキルに不安がある場合でも、それを補うことができるだけの代替的な側面もあり、できる手段の一つではあるが、より「こどもの自分なりの表現」を促そうとする点に重きを置いた時、子どもたちに働きかけ、子どもに寄り添いつつ、テンポや声の大きさなどの点において子どもの内なる力を引き出し、その上で自然と表現し得るのは、ピアノ伴奏が随一なのではないだろうか。

このように、領域「表現」のねらいと内容からも、CD音源等で代用できる部分ももちろんあるが、より子どもに寄り添える形としてピアノ伴奏が好ましいことが読み取れる。

IV. 結果と考察

「日本の子どもの歌」掲載曲を項目ごとに分析する。なおここで調査対象となるのは、旋律のみに限定する。

項目については、「調」「音域」「拍子」「小節数」「テンポ」「その他」である。掲載曲すべてについて、項目ごとに記録し、一覧表を作成した。一覧表は Table 2. の通りである。

Table 2. 各曲を構成する要素 (1)

	曲名	調性	音域	拍子	小節数	テンポ	その他
1	「風車」作詞：不詳／作曲：東儀季濤	ホ長調	d1-h1	2/4	16小節	なし	
2	「越天楽今様」作詞：慈鎮／作曲：日本古謡	イ短調	d1-e2	4/4	16小節	J=66	
3	「蝶々」野村秋足ほか／作曲：スペイン民謡	ト長調	g1-d2	2/4	16小節	なし	
4	「見わたせば (むすんでひらいて)」不詳／作曲：ルソー	ハ長調	c1-a1	4/4	24小節	J=104	
5	「家鳩」作詞：不詳／作曲：雅楽課伶人(撰譜)／中村道子(採譜)	ニ長調	d1-d2	4/4	28小節	なし	
6	「さくらさくら」作曲：日本古謡	イ短調	h-c2	4/4	14小節	なし	
7	「うさぎ」作曲：日本古謡	イ短調	d1-c2	2/4	9小節	なし	
8	「一月一日」千家尊福／作曲：上真行	ニ長調	d1-d2	4/4	16小節	J=96	
9	「ひらいたひらいた」作曲：わらべうた	イ短調	e1-d2	2/4	12小節	なし	付点のリズム
10	「夏は来ぬ」作詞：佐佐木信綱／作曲：小山作之助	ハ長調	c1-e2	4/4	8小節	なし	
11	「金太郎」石原和二郎／作曲：田村虎蔵	ヘ長調	c1-d2	2/4	12小節	J=76	付点のリズム
12	「散歩消化」大和田建樹ほか／作曲：多梅稚	ヘ長調	c1-d2	2/4	16小節	J=120	付点のリズム
13	「うさぎとかめ」作詞：石原和二郎／作曲：納所弁次郎	ニ長調	d1-d2	2/4	16小節	なし	付点のリズム
14	「お正月」東くめ／作曲：滝廉太郎	ヘ長調	c1-c2	4/4	12小節	J=112	
15	「ふじの山」巖谷小波／作曲：文部省唱歌	ハ長調	c1-c2	4/4	16小節	J=96	
16	「春が来た」高野辰之／作曲：岡野貞一	ハ長調	e1-e2	4/4	8小節	J=120	
17	「虫の声」作曲：文部省唱歌	ハ長調	c1-c2	2/4	20小節	J=80	
18	「われは海の子」作曲：文部省唱歌	変ホ長調	b-es2	4/4	16小節	J=126	
19	「かたつむり」作曲：文部省唱歌	ニ長調	d1-d2	2/4	12小節	J=92	付点のリズム
20	「日の丸の旗」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ヘ長調	f1-d2	2/4	16小節	J=108	
21	「桃太郎」作詞：文部省唱歌／作曲：岡野貞一	ニ長調	d1-h1	2/4	12小節	J=112	
22	「雪」作曲：文部省唱歌	ヘ長調	f1-d2	2/4	16小節	J=92	付点のリズム
23	「浦島太郎」作曲：文部省唱歌	ヘ長調	c1-c2	2/4	16小節	J=100	付点のリズム
24	「紅葉」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ヘ長調	c1-d2	4/4	16小節	J=92	
25	「茶摘み」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ト長調	d1-d2	4/4	16小節	J=104	
26	「春の小川」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ハ長調	c1-c2	4/4	16小節	J=104	
27	「冬景色」作曲：文部省唱歌	ヘ長調	c1-d2	3/4	16小節	J=120	
28	「鯉のぼり」作曲：文部省唱歌	ヘ長調	c1-d2	4/4	16小節	J=96	付点のリズム
29	「朧月夜」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ハ長調	c1-d2	3/4	16小節	J=72	アウフタクト
30	「故郷」作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一	ヘ長調	c1-d2	2/4	16小節	J=80	
31	「赤い鳥小鳥」作詞：北原白秋／作曲：成田為三	ヘ長調	f1-d2	3/4	6小節	allegretto	付点のリズム
32	「かなりや」作詞：西条八十／作曲：成田為三	変ロ長調	b-es2	2/4	28小節	andante	付点のリズム
33	「靴が鳴る」作詞：清水かつら／作曲：弘田龍太郎	ニ長調	d1-d2	4/4	16小節	J=104	
34	「夕焼小焼」作詞：中村雨紅／作曲：草川信	ハ長調	c1-c2	2/4	16小節	J=84	付点のリズム
35	「とんび」作詞：葛原しげる／作曲：梁田貞	ニ長調	d1-d2	4/4	16小節	J=88	
36	「どんぐりころころ」作詞：青木存義／作曲：梁田貞	ハ長調	c1-c2	2/4	8小節	J=60	付点のリズム

Table 2. 各曲を構成する要素 (2)

	曲名	調性	音域	拍子	小節数	テンポ	その他
37	「てるてる坊主」作詞：浅原鏡村／作曲：中山晋平	ロ短調調	h1-d2	2/4	12小節	J=69	付点のリズム／臨時記号2箇所
38	「揺籃のうた」作詞：北原白秋／作曲：草川信	へ長調	c1-d2	2/4	8小節	J=56 軽やかに	付点のリズム
39	「七つの子」作詞：野口雨情／作曲：本居長世	ト長調	c1-d2	4/4	16小節	J=108	
40	「赤蜻蛉」作詞：三木露風／作曲：山田耕筰	へ長調	c1-f2	3/4	8小節	ゆっくりおだやかにJ=60	
41	「シャボン玉」作詞：野口雨情／作曲：中山晋平	二長調	a-d2	2/4	12小節	愉快J=72	付点のリズム
42	「肩たたき」作詞：西条八十／作曲：中山晋平	変ホ長調	b-es2	2/4	40小節	はずみをつけJ=88	
43	「どこかで春が」作詞：百田宗治／作曲：草川信	変イ長調	c1-es2	4/4	16小節	少し速く生き生きと	
44	「春よ来い」作詞：相馬御風／作曲：弘田龍太郎	イ長調	c1-c2	2/4	16小節	愛らしくJ=90	
45	「アメフリ」作詞：北原白秋／作曲：中山晋平	二長調	d1-d2	2/4	12小節	愛らしくJ=84	付点のリズム
46	「コインボリ」作詞：近藤宮子／作曲：不詳	二長調	d1-d2	3/4	16小節	J=120	
47	「牧場の朝」作詞：杉村楚人冠／作曲：船橋栄吉	二長調	d1-e2	4/8	20小節	♪=132	付点のリズム
48	「スキーの歌」作詞：林柳波／作曲：橋本国彦	ト長調	h-d2	4/4	18小節	J=120 元氣よく	付点のリズム
49	「チューリップ」作詞：近藤宮子・井上武士／作曲：井上武士	へ長調	f1-d2	2/4	12小節	J=92	
50	「まっぼっくり」作詞：広田孝夫／作曲：小林つや江	へ長調	f1-c2	2/4	16小節	J=84	
51	「うれしいひなまつり」作詞：サトウハチロー／作曲：河村光陽	ハ短調	c1-d2	2/4	16小節	優雅にあまり遅くなく J=69	付点のリズム
52	「汽車ポッポ」作詞：富原薫／作曲：草川信	へ長調	c1-f2	2/4	24小節	あまり遅くなく	付点のリズム
53	「うみ」作詞：林柳波／作曲：井上武士	ト長調	d1-d2	3/4	8小節	J=88 ゆったりとそして憧れるような気持ちで	
54	「かくれんぼ」作詞：林柳波／作曲：下総皖一	イ短調	d1-h1	2/4	12小節	活発にJ=112	付点のリズム
55	「たきび」作詞：巽聖歌／作曲：渡辺茂	ハ長調	c1-c2	2/4	16小節	J=104	
56	「子もり歌」作曲：日本古謡	田舎節	c1-c2	4/4	8小節		
57	「たなばたさま」作詞：権藤はなよ／林柳波(補作)作曲：下総皖一	ト長調	d1-d2	2/4	16小節	美しくJ=126	
58	「里の秋」作詞：斎藤信夫 作曲：海沼実	へ長調	c1-d2	4/4	16小節	やさしくJ=96	
59	「みかんの花が咲く丘」作詞：加藤省吾／作曲：海沼実	へ長調	f-e2	6/8	16小節	軽快にJ=76	付点のリズム
60	「歌の町」作詞：勝承夫／作曲：小林三千三	ハ長調	c1-d2	2/4	16小節	明るくあまり急がないで	付点のリズム
61	「ぶらんこ」作詞：都筑益世／作曲：芥川也寸志	変ホ長調	es1-d2	2/4	14小節	Andante J=66 environ	付点のリズム
62	「とんぼのめがね」作詞：額賀誠志／作曲：平井康三郎	ハ長調	c1-c2	2/4	12小節	J=104 軽快に	
63	「おつかいありさん」作詞：関根榮一／作曲：團伊玖磨	二長調	d1-d2	2/4	12小節	Allegretto scherzando	付点のリズム
64	「めだかの学校」作詞：茶木滋／作曲：中田喜直	二長調	d1-d2	4/4	10小節	明るく、げんきに、美しくJ=108	
65	「こおろぎ」作詞：関根榮一／作曲：芥川也寸志	変ホ長調	es1-es2	2/4	8小節	J=76	付点のリズム
66	「かわいいかくれんぼ」作詞：サトウハチロー／作曲：中田喜直	へ長調	c1-c2	2/4	19小節	J=104 可愛らしく	付点のリズム
67	「とんとんともだち」作詞：サトウハチロー／作曲：中田喜直	ホ長調	h-c2	4/4	11小節	J=112 元氣よく	付点のリズム
68	「おすもうくまちゃん」作詞：佐藤義美／作曲：磯部俣	変ロ長調	c1-d2	2/4	16小節	明るくはげんでJ=112	付点のリズム
69	「みつばちぶんぶん」作詞：小林純一／作曲：細谷一郎	ト長調	d1-d2	2/4	12小節	可愛らしくJ=84	
70	「あひるの行列」作詞：小林純一／作曲：中田喜直	へ長調	c1-d2	4/4	8小節	よちよちと、ユーモラスにJ=108 くらい	付点のリズム
71	「おさるがふねをかきました」作詞：まど・みちお／作曲：團伊玖磨	へ長調	c1-d2	2/4	16小節	Allegretto	付点のリズム
72	「ぞうさん」作詞：まど・みちお／作曲：團伊玖磨	へ長調	c1-d2	3/4	8小節		
73	「やぎさんゆうびん」作詞：まど・みちお／作曲：團伊玖磨	へ長調	c1-d2	4/4	16小節	可愛らしくJ=120	付点のリズム
74	「きゅつきゅつきゅう」作詞：相良和子／作曲：芥川也寸志	ハ長調	e1-e2	4/4	8小節	J=120 速すぎぬように	付点のリズム
75	「子守歌」作詞：野上彰／作曲：團伊玖磨	へ長調	d1-d2	4/4	12小節	Andantino	付点のリズム
76	「大きなたいこ」作詞：小林純一／作曲：中田喜直	へ長調	c1-d2	4/4	8小節	J=56	付点のリズム
77	「ふしぎなポケット」作詞：まど・みちお／作曲：渡辺茂	ト長調	d1-d2	2/4	16小節	J=112	
78	「わらいかわせみに話すなよ」作詞：サトウハチロー／作曲：中田喜直	ハ長調	c1-d2	2/4	18小節	J=112	付点のリズム
79	「こたりのうた」作詞：与田準一／作曲：芥川也寸志	二長調	c1-d2	4/4	8小節	J=104	付点のリズム
80	「かぜさんだつて」作詞：芝山かおる／サトウハチロー(補作)／作曲：中田喜直	二長調	e1-d2	4/4	7小節	J=96 ぐらい	付点のリズム／臨時記号2箇所

Table 2. 各曲を構成する要素 (3)

	曲名	調性	音域	拍子	小節数	テンポ	その他
81	「ちいさい秋みつけた」作詞：サトウハチロー／作曲：中田喜直	ホ短調	h-e2	4/4	14 小節	J=80	付点のリズム
82	「トマト」作詞：荘司武／作曲：大中恩	ヘ長調	d1-d2	2/4	8 小節	J=78	付点のリズム
83	「おかあさん」作詞：田中ナナ／作曲：中田喜直	二長調	e1-d2	4/4	8 小節	J=92	
84	「つりかわさん」作詞：まど・みち／作曲：磯部叔	ハ長調	c1-c2	4/8	15 小節	はやい 4 拍子で J=168	付点のリズム
85	「すうじの歌」作詞：夢虹二／作曲：小谷肇	ハ長調	c1-c2	2/4	8 小節	Intro.	付点のリズム
86	「サっちゃん」作詞：阪田寛夫／作曲：大中恩	ヘ長調	c1-d2	2/4	14 小節	J=84	付点のリズム
87	「いぬのおまわりさん」作詞：佐藤義美／作曲：大中恩	二長調	d1-c2	4/4	17 小節	J=104	
88	「アイスクリームの歌」作詞：さとうよしみ／作曲：服部公一	ハ長調	a-d2	4/4	40 小節	少し遅めの行進曲	付点のリズム／臨時記号 8 箇所
89	「おなかのへるうた」作詞：阪田寛夫／作曲：大中恩	二長調	d1-d2	2/4	18 小節	ユーモラスに J=112	付点のリズム
90	「おふろジャブジャブ」作詞：佐藤義美／作曲：服部公一	ヘ長調	c1-d2	4/4	8 小節	J=112	付点のリズム
91	「とけいのうた」作詞：筒井敬介／作曲：村上太朗	二長調	c1-d2	4/4	6 小節	J=96	
92	「思い出のアルバム」作詞：増子とし／作曲：本多鉄磨	ハ長調	c1-d2	4/4	16 小節	Andante J=63	付点のリズム
93	「手のひらを太陽に」作詞：やなせたかし／作曲：いずみた	変ホ長調	c1-d2	4/4	24 小節	J=108 あかるく	付点のリズム
94	「コンコンクジャンのうた」作詞：香山美子／作曲：湯山昭	ヘ長調	c1-d2	4/4	14 小節		付点のリズム
95	「ドロップスのうた」まど・みちお／作曲：大中恩	二長調	c1-e2	2/4	32 小節	J=96	付点のリズム
96	「おもちゃのチャチャチャ」作詞：野坂昭如／吉岡治(補作)／作曲：越部信義	ハ長調	c1-c2	4/4	20 小節	Cha cha cha ややはやめに	臨時記号 9 カ所
97	「アイアイ」作詞：相田裕美／作曲：宇野誠一郎	ハ長調	c1-d2	4/4	20 小節	Moderato J=92	
98	「あめふりくまのこ」作詞：鶴見正／作曲：湯山昭	二長調	d1-d2	2/4	12 小節	やさしく はなしかけるように J=96 ぐらい	付点のリズム
99	「おはながわらった」作詞：保富庚午／作曲：湯山昭	ヘ長調	c1-c2	2/4	12 小節	たのしくはずんで J=72 ぐらい	付点のリズム
100	「山のワルツ」作詞：香山美子／作曲：湯山昭	変ホ長調	b-es2	3/4	14 小節	しずかにのびのびと J=92 ぐらい / しずかにのびのびと J=80 ぐらい (5 小節目以降)	
101	「はしるのだいすき」作詞：まど・みちお／作曲：佐藤眞	変ロ長調	d1-d2	4/4	8 小節	活発に J=138	付点のリズム
102	「おはなしゆびさん」作詞：香山美子／作曲：湯山昭	変ホ長調	b-d2	4/4	6 小節	たのしく あそんで J=116	付点のリズム
103	「あさ いちばんはやいのは」作詞：阪田寛夫／作曲：越部信義	ハ長調	c1-d2	4/4	15 小節	Moderato	付点のリズム
104	「とんでったバナナ」作詞：片岡輝／作曲：櫻井順	ハ長調	h-d2	4/4	26 小節	J=132	
105	「ぼうが一本あったとき」作詞：東京のわらべうた／作曲：小泉文夫(採譜)／編曲：間宮芳生	イ短調	c1-g1	2/4	37 小節		付点のリズム
106	「せっけんさん」作詞：まど・みちお／作曲：富永三郎	ヘ長調	c1-d2	2/4	12 小節	かるく ことばをかいして J=88~90	
107	「まっかな秋」作詞：薩摩忠／作曲：小林秀雄	ヘ長調	c1-d2	4/4	18 小節	J=120	付点のリズム
108	「マーチング・マーチ」作詞：阪田寛夫／作曲：服部公一	変イ長調	e1-d2	4/4	23 小節	マーチ気分で	付点のリズム
109	「たのしいね」作詞：山内佳鶴子／作曲：寺島尚彦	ヘ長調	d1-d2	4/4	13 小節	明るく	
110	「こゆび」作詞：こわせ・たまみ／作曲：林光	ト長調	d1-d2	4/4	16 小節	はやく Allegro	付点のリズム
111	「あくしゅでこんにちわ」作詞：まど・みちお／作曲：渡辺茂	二長調	d1-a2	2/4	12 小節	あかるく、げんきに Allegro	付点のリズム
112	「手をつなごう」作詞：中川李枝子／作曲：諸井誠	二長調	d1-d2	2/4	20 小節	Allegretto J=108	付点のリズム
113	「カレーライスのうた」作詞：関根榮一／作曲：服部公一	変ホ長調	b-c2	4/4	12 小節	J=88 くらい(調子よく)	
114	「へい! タンプリン」作詞：吉岡治／作曲：湯山昭	ヘ長調	c1-d2	4/4	28 小節	げんきよく J=126~138 ぐらい	付点のリズム／臨時記号 8 箇所
115	「1ねんせいになったら」作詞：吉岡治／作曲：湯山昭	ヘ長調	c1-d2	4/4	12 小節	Allegretto	付点のリズム
116	「せんせいとおともだち」作詞：吉岡治／作曲：越部信義	ハ長調	c1-c2	4/4	8 小節	J=126	付点のリズム
117	「あら どこだ」作詞：神沢利子／作曲：越部信義	変ロ長調	b-d2	4/4	10 小節	J=120	
118	「おばけなんてないさ」作詞：横みのり／作曲：峯陽／編曲：越部信義	ト長調	d1-d2	4/4	8 小節	Allegretto	付点のリズム
119	「子守歌」作詞：野上彰／作曲：團伊玖磨	ヘ長調	c1-h2	2/4	34 小節	J=108 ぐらいはずんで	付点のリズム
120	「大きなたいこ」作詞：小林純一／作曲：中田喜直	ヘ長調	c1-d2	4/4	12 小節	たのしくゆかに J=126 ぐらい	付点のリズム
121	「ふしぎなポケット」作詞：まど・みちお／作曲：渡辺茂	ハ短調	c1-d2	4/4	27 小節	うんと明るく元気に	付点のリズム
122	「わらいかわせみに話すなよ」作詞：サトウハチロー／作曲：中田喜直	ハ長調	c1-d2	4/4	8 小節	たのしく	臨時記号 9 カ所
123	「ことりのうた」作詞：与田準一／作曲：茶川也寸志	変ホ長調	es1-es2	4/4	28 小節	Tempodi Marcia	
124	「かぜさんだつて」作詞：芝山かおる／サトウハチロー(補作)／作曲：中田喜直	ヘ長調	c1-d2	4/4	20 小節	Moderato J=104	付点のリズム

Table 2. 各曲を構成する要素 (4)

	曲名	調性	音域	拍子	小節数	テンポ	その他
125	「ホ！ホ！ホ！」作詞：伊藤アキラ 作曲：越部信義	二長調	e1-d2	4/4	23小節	楽しくはげんで	付点のリズム
126	「北風小僧の真太郎」作詞：井出隆夫 作曲：福田和禾子	へ長調	d1-d2	4/4	13小節	J=120	付点のリズム
127	「そうだったらいののこな」作詞：井出隆夫/作曲：福田和禾子	ト長調	d1-d2	4/4	16小節	げんきよく たのしそ うにJ=112	
128	「げんこつやまのためきさん」作詞：香山美子/作曲：小森昭宏	二長調	d1-a2	2/4	12小節		
129	「こぶためきつねこ」作詞：山本直純/作曲：山本直純	二長調	d1-d2	2/4	20小節	たのしく	付点のリズム
130	「地球はみんなのものなんだ」作詞：山川啓介/作曲：いずみたく ／編曲：早川史郎	変ホ長調	b-es2	4/4	12小節		付点のリズム
131	「そらでえんそくしてみたい」作詞：悠木一政/作曲：早川史郎	へ長調	e1-d2	4/4	28小節	J=116	付点のリズム
132	「南の島のハメハメハ大王」作詞：伊藤アキラ/作曲：森田公一 ／編曲：佐々木勝彦	へ長調	e1-d2	4/4	12小節	J=128	付点のリズム
133	「ありがとう・さようなら」作詞：井出隆夫/作曲：福田和禾子	ハ長調	e1-e2	4/4	8小節	J=60 おはなしをする ように	付点のリズム
134	「ヤッホッホ！夏休み」作詞：伊藤アキラ/作曲：小林亜星 / 編 曲：早川史郎	変ロ長調	b-d2	4/4	10小節	J=126	付点のリズム
135	「イルカはザンブラコ」作詞：東龍男/作曲：若松正司	ト長調	d1-d2	4/4	8小節	げんきに	付点のリズム
136	「バナナのおやこ」作詞：関和男/作曲：福田和禾子	へ長調	e1-h2	2/4	34小節	たのしく元気に	
137	「ぼくのミックスジュース」作詞：五味太郎/作曲：渋谷毅 / 編 曲：林アキラ	へ長調	e1-d2	4/4	12小節	元気よくJ=136	
138	「にんげんっていいな」作詞：山口あかり/作曲：小林亜星 / 編 曲：早川史郎	ハ短調	e1-d2	4/4	27小節	Allegro	付点のリズム/ イ長調へ転調
139	「いま生きる子どものマーチ」作詞：こわせ・たまみ/作曲：湯山昭	ハ長調	e1-d2	4/4	8小節	行進曲の速さでJ=116 ～126	付点のリズム/ 臨時記号4箇所
140	「あまのそらにえをかこう」作詞：一樹和美/作曲：上柴はじめ	変ホ長調	es1-es2	4/4	28小節	J=126	付点のリズム/ 臨時記号7箇所
141	「はたらくくるま 1・2」作詞：伊藤アキラ/作曲：越部信義	へ長調	e1-d2	4/4	20小節	Medium Fast 軽快に、 楽しく	
142	「ぞうさんのぼうし」作詞：遠藤幸三/作曲：中村弘明	二長調	h-d2	4/4	24小節	J=120	付点のリズム
143	「おはようクレヨン」作詞：谷山浩子 / 作曲：谷山浩子 / 編 曲：藤本敦夫	へ長調	e1-f2	4/4	18小節	J=60 だんだんはやく J=86	付点のリズム
144	「世界中のこどもたちが」作詞：新沢としひこ/作曲：中川ひろたか	ハ長調	e1-e2	4/4	12小節	J=126～138	付点のリズム
145	「たれこであっておたんじょうび」作詞：一樹和美/作曲：上柴は じめ / 編曲：上柴はじめ	イ短調	e1-h2	4/4	30小節	J=120	付点のリズム
146	「バンダラうさぎコアラ」作詞：高田ひろお/作曲：乾裕樹	二長調	d1-h2	4/4	9小節	J=120 リズムに乗って	付点のリズム
147	「どんな色がすき」作詞：坂田修/作曲：坂田修/編曲：乾裕樹	ハ長調	e1-d2	4/4	24小節	J=120 ぐらい	付点のリズム/ 変イ長調へ転調
148	「ここがせいのまんまなんだ」作詞：井出隆夫/作曲：福田和禾子	へ長調	e1-d2	4/4	15小節	J=130 明るく元気よく	
149	「銀ちゃんのラブレター」作詞：俵万智/作曲：福田和禾子	へ長調	e1-d2	4/4	20小節	J=106 さわやかに	
150	「さよならぼくたちのいっくえん (ようちえん)」作詞：新沢とし ひこ/作曲：島筒英夫/編曲：早川史郎	変ホ長調	b-es2	6/8	30小節	J=86	
151	「こじのむこうに」作詞：坂田修/作曲：坂田修/編曲：池毅	ト長調	d1-d2	4/4	20小節	J=139	
152	「お空の色は何色がな」作詞：冬野あり/作曲：上田豊	へ長調	e1-h2	3/4	16小節	J=92 ゆったりと	
153	「ありがとうの花」作詞：坂田おさむ/作曲：坂田おさむ / 編 曲：池毅	ハ長調	e1-d2	4/4	28小節	J=98	付点のリズム

1. 調性

掲載曲の調は多かった順に、へ長調 (45 曲)、ハ長調 (29 曲)、二長調 (28 曲) であった。調号 3 つ以内の曲が多く、「にんげんっていいな」のように曲の途中でイ長調に転調することはあるが、基本的には調号 3 つ以内に収まっていることがわかった。

しかし、ピアノ初学者は黒鍵を演奏することが難しいと思われる。これは、音階の中に白鍵と黒鍵の混在という状態になると、理解の上で混乱を引き起こさせる状況が顕著に見られる。それは黒鍵の多寡には確かに関係があり、音階中での黒鍵数の増加に伴って理解が追いつきに

くくなる傾向があるが、たとえ調号が 3 つ以内であったとしても抵抗を示す学生は少なくない。

そのため、特に調号を 3 つ以内に限定し、調も長調のみに絞ることで、黒鍵に対する苦手意識の克服を目指した実践や指導が必要であると考えられる。

特に、今回の調査では、へ長調、ハ長調、二長調が多い結果となったことから、これらの調への抵抗を和らげるような指導が必要である。それは例えば、手の形を当該調と重ね合わせたり、あるいは、刷り込みと言っては語弊があるが、集中的に当該調ばかりを取り上げて学習させることで、調そのものに対するハードルを低

めるなどの多様な試みが求められるのではないか。

また、中には初学者用に黒鍵を演奏する必要のない、ハ長調に移調された簡易楽譜も多く出版されていることから、便宜的に、ハ長調のみで進めさせることも、暫定的な取り組みとしては取り入れる価値が一定程度見出せる。ただ、保育現場で今後様々な調による楽曲を弾くことを考えた時、いわば対症療法的で抜本的な解決には至りにくいことが考えられる。将来的なスキルの習得を視野に入れた時、やはりここで黒鍵を含む楽曲を回避すると、いずれ近いうちになんらかの形で行き詰まってしまうであろうことが推測される。

2. 音域

音域は最低音が c1 (70 曲), d1 (41 曲), e1 (12 曲) という順に多いことが集計から明らかになった。また、最高音では d2 (83 曲), c2 (26 曲), e1 (21 曲) あったことも確認できた。一方、ほとんどの童謡で、音域は c1 ~ d2 内に収まっていることも、併せて認められた。特に最高音については、d2 が他と大きな差をつけて多い結果となった。

幼児期の声域は a ~ h1 が適切であると日高 (2021) が述べている⁹⁾。本研究の調査結果では、先の最高音は d2 が多いということになり、幼児期に適正な音域からは多少外れることになる。最高音の頻度は他の音と比べてさほど多くないことから、概ね幼児に無理のない音域の範囲以内と言える。

また、音域が広い曲、例えば「さよならぼくたちのほいくえん (ようちえん) (b - es2) や「山のワルツ」(b - es2) 等では、ワンポジションによる演奏に困難をもたらすことになる。よって、初学者への選曲は、「見わたせば (むすんでひらいて) (c1 - a1), 「かくれんぼ」(d1 - h1) などの、右手がワンポジションで容易に演奏可能な楽曲であれば、演奏上の負担を大きく抑えることができると考えられる。

3. 拍子・リズム

すべての拍子の中で、4分の4拍子と4分の2拍子が突出して多い結果となった。一方、限られた曲にのみ見られたのは、4分の3拍子や8分の6拍子が挙げられる。3拍子という拍子は、

ことに初学者にとっては取りにくい拍子である。また童謡にも4分の4拍子や4分の2拍子が多く用いられていることから、特段3拍子の練習に比重を置くことの重要性が見出せないようにも思われるが、3拍子による掲載曲を見てみると、「ぞうさん」や「山のワルツ」等、古くから親しまれている楽曲がことのほか多く存在し、また現代に至るまで歌い継がれていることが一覽から明らかなことから、やはり副次的な扱いも妥当とは言えない。ピアノ初学者による弾き歌いの学習の端緒となる楽曲にはいくつかの共通項があるが、例えば自身が知っている楽曲であれば、馴染みがあるだけに進め方もスムーズであろうことが想定できるし、または演奏時間として極力短かったり、使用されている音符が限定されている方が負担を減じることができるという、いわゆる楽曲の「弾きやすさ」という点からレパートリーを増やしていくことが多い。その観点によると、自ずと3拍子は避けて取り組まれる対象になりがちだが、前述のように現代でも歌われる頻度が高い楽曲を包含している点に鑑みた時、在学中に3拍子の楽曲のレパートリーも積極的に増やす必要に迫られるはずである。

また、リズムにおいて多く用いられているのは、付点8分音符と16分音符からなる、いわゆる「スキップのリズム」という俗称を持つ付点のリズム(以降、付点のリズム)である。付点のリズムが使われている楽曲については、Table 2. の「その他」の欄に記載したとおりである。4分音符や8分音符による、単調さを感じさせる反面、複雑性が回避されることで初学者がなじみやすいリズムの曲もあるが、Table 2. に示されているように、これだけ多くの曲に付点のリズムが多用されていることから、習得を避けられないどころか、能動的に取り組むべきリズムであることがわかる。しかし、先の俗称にもあるとおり、体感しやすいという側面を有することからも、楽しみも伴いつつ体得が可能なリズムであるとも言える。

4. 小節数

ここでは、複数の歌詞によるリピート記号を省略した小節数を記録した。16小節(41曲)、8小節(29曲)12小節(22曲)の順で多い結果となったが、「3. 拍子・リズム」でも触れたと

おり、少ない小節数の曲であれば、学生の負担が著しく軽減されることで、ひいてはそれがレパートリーの拡大にもつながることは期待できる。また、今回調査対象とした童謡集には6～8小節の曲が40曲掲載されており、有名無名を問わなければ、実は初学者にとって取り組みやすい楽曲は、この童謡集に限っても潤沢にあることが確認された。

しかし、これも「3. 拍子・リズム」で既述したことだが、小節数が少なくても「おぼけなんてないさ」等の様に、様々な音符の種類が使われていることで、他曲と比べてリズムが難しいと感じさせる楽曲も相当数存在する。このため、選曲の際には濃やかな配慮が必要ではあるが、まず視覚的に過剰なハードルを学習者に感じさせないという意味においても、少なめの小節数の楽曲の提示が、初学者にとって学習のしやすさにつながるのではないかと考える。その「少なめ等の小節数の楽曲」とは、個人差があるために一概に言えるものではないが、先にも触れた「視覚的に過剰なハードルを学習者に感じさせない」という点にフォーカスした時、多くても1段あたり4小節かける3段分による12小節ほどが、視覚的にも労力的にも負担なく取り組めるひとつの基準となり得るのではないかと考える。

5. テンポ

掲載曲のテンポは「= 92 ～」= 120が多いという結果となった。これは、記載のテンポで演奏することが理想ではあるものの、領域「表現」でも述べたように、伴奏はあくまでも子どもたちの「自分なりの表現」を支える手段であるため、子どもたちの状況に応じたテンポ設定が求められる。一例を挙げると、同じ楽曲を取り上げるとした時、5歳児で扱う時と、試みに3歳児に課してみた時とでは、順応できるテンポの検討が必要になるはずである。つまり、テンポ的に無理を生じさせると考えられる場合、速度を落としたテンポから始めて、その後の対応へとつなげていくという、意図的ないしは人為的な操作が必要となる。また、掲載曲の中にはテンポ設定については特に指定がなく、「そうだったらいいのにな」や「やぎさんゆうびん」の様に、発想記号のみ示されている楽曲も多く存在する。このように童謡では、歌詞のイメージを損なわ

ない伴奏の工夫が求められることは言うまでもない。

6. その他

これまで述べた項目のほかに、曲の特徴がある項目についてはTable 2. 中に記したとおりである。この中でアウフタクトで開始する楽曲については、可能な限り学生に習得を促したいスキルではあるが、全体を見渡しても1曲のみと極度に少ないこともあり、特段優先的に取り組むほどの比重ではないとの見解に至っている。

また、臨時記号についても「その他」に記載したが、臨時記号を含む楽曲は7曲であった。「1. 調性」でも述べたように、初学者は黒鍵の扱いに抵抗を持つことが多いこともあり、同様に臨時記号に対しても配慮する必要がある。例えば、「おもちゃのチャチャチャ」はハ長調なので調号はないが、臨時記号が9カ所記載されている。「アイスクリームのうた」も同様で、8カ所に臨時記号が散りばめられている。

逆に、臨時記号が含まれる曲は、含まれていない曲よりも少ないため、この現状を踏まえた時、敢えて臨時記号を含む曲を選択することで、読譜力を養うことにもつながるとも考えられる。つまり、学生が置かれているケースに柔軟に応じた、また学生の目的に沿った選曲とその適切な指導こそが、最優先される事項であることは論を俟たない。

VI. まとめ

「明日へ歌い継ぐ日本の子どものうた」を項目別に楽曲の分析をすることで、保育者・教員養成校に在学する学生にはどのようなピアノの技術習得が必要なのか、また一方の指導者側には指導の際にどのような配慮が必要なのかについての理解を深めることができた。

そしてそれぞれの項目で、学生が感じるであろう課題も併せて見出すことができたが、それぞれの項目で挙げた課題は各々が切り離されて独立しているのではなく、互いに複合的に重なり合った上で演奏上に反映される。これまで列挙してきたのは、言い換えれば、その現出した事象を教員が看過することなく適切に抽出し、それに見合った対応方法のための項目でもある。この点を踏まえて、今後も継続していかにピア

ノの初学者に寄り添えるかというピアノの指導法におけるテーマを自らに課し、また今後も模索し続けていきたいと考える。

【文献】

- 1) 全国大学音楽教育学会 (2013) 明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡 140年の歩み 音楽の友社
- 2) 諸井サチヨ (2016) 保育者養成校での『弾き歌い』指導に関する一考察～ 学生のピアノ技能に関する実態調査を中心に～ 淑徳大学短期大学部 研究紀要 55, 81-90
- 3) 株式会社バンダイ (2014) 「子どもの習い事に関する意識調査」結果 バンダイこどもアンケートレポート Vol.215
- 4) 本間千尋 (2012) 日本におけるピアノ文化の普及：高度経済成長期の大衆化を中心として 本慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 74, 33-54
- 5) 伊藤牧子 (2021) 休眠ピアノの活用とその意義 国立音楽大学研究紀要 55, 1-6
- 6) 井上公人 (2018) 日本におけるピアノ所有の社会的意味の変容に関する分析 — 威信財から教育財, 教育財から選択的贅沢趣味財へ — 2015年SSM調査報告書4教育I 77-102
- 7) 山崎英明 (2024) 保育士養成校における音楽科目の指導内容に関する考察 -四年制大学のシラバス分析から- リカレント研究論集 2, 21-30
- 8) 内閣府他 (2018) 稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示 原本 チャイルド本社
- 9) 日高まり子 横山祐里奈 (2021) 幼児の歌唱声域 — あそび歌300曲の分析を通して — 宮崎国際大学教育学部紀要「教育科学論集」 8, 108-123

Emerging from the musical tendencies of children's songs

Reflections on the acquisition of piano skills

Mayuko WAKAHARA

Department of Early Child Education, Teikyo Junior College

【abstract】

【Purpose】 For students who aim to become childcare workers in the future, the acquisition of a certain level of piano skills is indispensable for facing childcare in the field, and the need to acquire skills has not changed even today. In addition, it is not uncommon for nursery teacher training colleges to be dominated by piano beginners at the time of admission. However, despite this background, students are required to acquire and become proficient in piano playing techniques during a limited period of time while at university. Therefore, by focusing on the melody of the children's songs that teachers should learn, we searched for clues for teaching piano from the tendency of the music.

【Methods】 The subject of the survey is the songs and sheet music published in "140 Years of Children's Singing and Nursery Rhymes in Japan (Compiled by the National Association of University Music Education)" and its sheet music. For each song, a list of "tonality," "range," "time signature," "number of bars," "tempo," and "other" was created and analyzed. Based on the prepared table, we identified the students' issues and examined teaching methods according to the tasks.

【Results】 The songs listed were, in descending order, "F major," "C major," and "D major." Since there is a bias in tonality, it is necessary to provide guidance that reduces resistance to these keys. In addition, there are many songs in 4/4 time and 2/4 time, but there are songs in 3/4 time that have been familiar for a long time, so it is necessary to actively increase the repertoire of songs in 3 time while still in school. In addition, we identified issues for each item in the created list and proposed teaching methods.

【Discussion】 Learning tasks were indicated for each of the items in the created table, "tonality," "range," "time signature," "number of bars," "tempo," and "other." It is possible to focus on the points that are common to many learners, and to show the appropriate teaching method for beginners to the piano based on the tendencies and characteristics of the music, which will lead to efficient learning for students at childcare training schools who need to acquire skills in a short period of time.

【Key words】 Piano accompaniment, Children's Songs, Piano performance instruction